

高知県感染症発生動向調査（週報）

2019年 第4週 （1月21日～1月27日）

★お知らせ

○インフルエンザに気を付けて！

定点医療機関当たりの報告は第3週の66.00から第4週は51.02と減少していますが、4週連続で警報値を超えています。県全域から報告があり、高知市、中央西、幡多、安芸で減少し、高知市、中央東、中央西、須崎、幡多で警報値を、安芸では注意報値を超えていますので注意してください。

学校等における集団発生の報告でも学年閉鎖、学級閉鎖の報告が続いています。

高知県保健所別の定点当たり報告数と警報・注意報レベル状況（2019年第4週）

	今週		1週前		2週前		3週前		4週前		5週前		6週前	
	第4週		第3週		第2週		第1週		第52週		第51週		第50週	
	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況
高知県全域	51.02	△	66.00	△	50.19	△	30.10	△	11.23	○	4.92	-	1.15	-
安芸	24.75	○	33.00	△	14.50	○	6.50	-	6.25	-	0.75	-	0.50	-
中央東	55.82	△	65.18	△	46.00	△	27.36	○	15.91	○	9.27	-	0.91	-
高知市	59.00	△	82.56	△	60.94	△	38.00	△	13.19	○	5.63	-	1.50	-
中央西	53.00	△	70.40	△	66.20	△	39.40	△	8.00	-	3.60	-	1.40	-
須崎	47.75	△	47.50	△	38.75	△	34.75	△	12.25	○	3.00	-	1.00	-
幡多	42.00	△	57.00	△	48.00	△	21.75	○	4.88	-	1.38	-	1.00	-

注意報値：○（10以上30未満） 警報値：△（30以上）

学校等における集団発生

※感染症情報収集システム

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計
学級閉鎖	第4週		2	19	1		1	23
	累計		3	25	1		2	31
学年閉鎖	第4週		3	1	2	2		8
	累計	2	5	4	6	3	3	23
休校	第4週							0
	累計				1			1

インフルエンザ定点医療機関における迅速診断ではインフルエンザA型が2,362件、インフルエンザB型が9件に加えて、A型・B型同時検出2件の報告があります。

病原体検出情報では、臨床診断名「インフルエンザ」として搬入された検体からInfluenza virus A H1pdm09が4例、Influenza virus A H3 NTが5例、臨床診断名「上気道炎」として搬入された検体からInfluenza virus A H1pdm09が1例検出されるなど、Influenza virus A H1pdm09の割合が増加しています。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況は、直近の5週間（2018年第51週～2019年第3週）ではAH1pdm09の検出割合が最も多く61.9%、次いでAH3が37.0%、B（山形系統）が0.8%、B（ビクトリア系統）が0.3%の順でした。

インフルエンザの流行期に入っていますので、外出後の手洗いなどの感染予防を心がけ、症状がある方は、咳エチケットに心がけ、早めに医療機関を受診しましょう。また、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人ごみを避けるなどの対策も有効です。感染力は非常に強く、いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が拡大することから、集団生活の場では特に注意が必要です。

＜予防方法＞ 手洗いと咳エチケットを心がけましょう

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染であることから、感染予防のため以下の咳エチケットに心がけてください。

- （1）普段から皆が咳エチケットを心がけるとともにくしゃみを他の人に向けて発しないこと。
- （2）咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをすること。
- （3）手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと。

●厚生労働省「インフルエンザ総合ページ」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuleza/index.html

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第3週の5.13から第4週では5.97と横ばいです。県全域から報告があり、高知市、須崎、安芸で増加しています。

学校欠席者・感染症情報システム※でも36例の報告があることから注意が必要です。

定点医療機関からのホット情報では、ノロウイルス17例、ロタウイルス2例、細菌の病原性大腸菌2例、カンピロバクター菌属2例の報告があります。

病原体検出情報では臨床診断名「感染性胃腸炎・ウイルス性胃腸炎」として搬入された検体からNorovirus GII NTが2例、Sapovirus genogroup unknownが1例検出されています。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、1年を通して発生していますが、特に冬季に流行します。嘔吐、下

痢が主症状ですが、その他、発熱、腹痛などの症状があります。特に、乳幼児や高齢者、体力の低下している方は、下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。通常は1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長いときには1ヶ月程度便中にウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

<予防方法> 感染予防の基本は手洗いです

帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。

便や嘔吐物を処理する時は、感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

また、細菌による感染性胃腸炎の予防対策としては、食中毒の一般的な予防方法（食中毒菌を①付けない（洗う・分ける） ②増やさない（低温保存・早めに食べる） ③やっつける（加熱処理））です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけてください。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関するQ&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

○伝染性紅斑（リンゴ病）に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告は第3週 0.40 から第4週は 0.50 と増加しています。中央西で急減していますが、高知市で急増、中央東で増加し、特に中央東では注意報値を超えています。

伝染性紅斑は別称「リンゴ病」と呼ばれ、頬がリンゴのように赤くなります。7日前後の潜伏期間があり、その後、両頬に鮮明な紅い発疹が現れ、体や手足に網目状の発疹が広がります。通常1週間程度でそれらは消失します。多くの場合、頬に発疹が出現する7～10日前に、微熱や風邪のような症状がみられ、この時期にウイルスの排出が最も多くなります。発疹が現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失します。

妊娠中（特に妊娠初期）に感染した場合、まれに胎児の異常（胎児水腫）や流産が生じることがあるので注意が必要です。

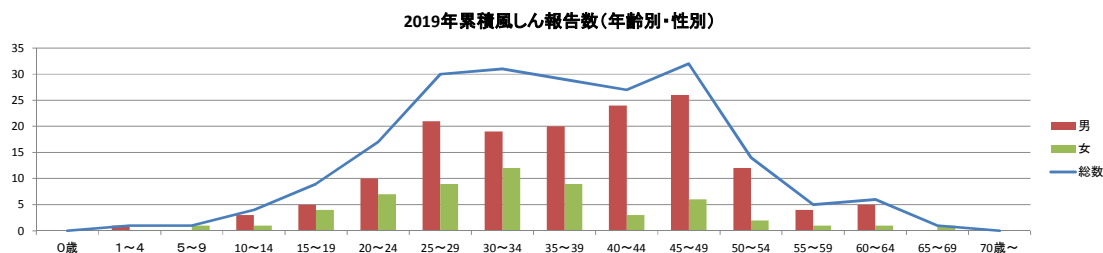
<予防方法> 手洗いと咳エチケットです

飛沫感染や接触感染なので、手洗い、うがい、咳エチケット等の予防対策が有効です。予防接種はありません。ウイルス排泄時期には特徴的な症状を示さない場合もあるので、妊娠中あるいは妊娠の可能性のある女性は、できるだけ発熱などの症状のある患者との接触を避けるよう注意しましょう。

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

○風しんの届出数が多い状態が継続しています

2018年の全国風しん患者数の累積は2,917人のうち96%（2,792人）が成人で、30歳から50歳代の男性を中心に男性が女性の4.3倍多くなっています（男性2,364人、女性553人）。また、2019年第1週～3週の報告数は207人となっており、93%（192人）が成人で、昨年同様30歳から50歳代の男性を中心に（男性150人、女性57人）に報告数の多い状態が継続しています。



報告数の多い都道府県は、東京都、神奈川県、千葉県、福岡県、大阪府以外に埼玉県、兵庫県、佐賀県、茨城県、山口県など首都圏以外の地域からも報告が認められています。

今後、感染が拡大する可能性がありますので、人混みを避けるなど今後さらなる注意・予防に努めましょう。

【風しんについて】

症 状 : 発熱、発疹、リンパ節の腫れ

感 染 経 路 : 患者の咳やくしゃみのしぶきによる飛沫感染および接触感染でヒトからヒトへ感染

潜 伏 期 間 : 2～3週間程度

感染性のある期間: 発疹のでる7日前から発疹出現後7日くらいの間

【風しんを疑ったら】

発熱や発疹など風しんに特徴的な症状が現れた方は、必ず事前に医療機関に連絡の上、受診してください。

【予防方法】

- ・風しんの予防、感染の拡大防止には予防接種が効果的です。
風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう（1歳児、小学校入学前1年間の幼児の方）
- ・風しんに感染した方の周りに抗体の低い妊婦がいる場合、特に妊娠20週頃まで（妊娠初期）の女性が風しんに罹ると胎児が風しんウイルスに感染し、難聴や心疾患など様々な障害（先天性風しん症候群）をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。妊婦や赤ちゃんを守る観点から妊婦の周りの方（夫、子供及びその他の同居人）は風しんに罹らないように予防に努めましょう。

【各医療機関管理者の皆様へ】

（高知県健康対策課 平成30年8月17日付け30高健対第859号「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起」より）

- ① 発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、風しんに罹っている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの予防接種を確認するなど風しんを意識した診察をお願いいたします。
- ② 風しんを疑う患者を診察した際は、確定診断のためのウイルス検査を県衛生研究所で行いますので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へ届け出るようお願いいたします。

●風しん Q&A2018年1月30日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

●風しんについて（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/

●衛研ニュース第20号（高知県衛生研究所）30～50歳代の男性！風しんのことを知っていますか？

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2018101000056.html>

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS・つつが虫病）に注意！



【日本紅斑熱・SFTS】

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖かい春から秋にかけて盛んに活動し、この期間に多くの患者発生がみられますが、冬でも発生例が報告されています。寒い季節ですが、屋外で活動される場合はマダニ対策を心がけましょう（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。

マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。

地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。

活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

【つつが虫病】

「ツツガムシ」に咬まれることによって感染する「つつが虫病」にもご注意ください。高知県では秋から冬にかけて多く報告されており、ダニの一種である「ツツガムシの幼虫（0.2mm）」が媒介する感染症です。全てのツツガムシが病原体を持っているわけではありません。

予防対策については、マダニと同じく「ツツガムシに咬まれない」ことです。

屋外活動する時には、長袖や長ズボンで肌の露出を避けることや、ツツガムシに対する虫除け剤（有効成分：ディート）を活用するなどマダニと同様の対策をして注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

●重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_ga.html

●高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

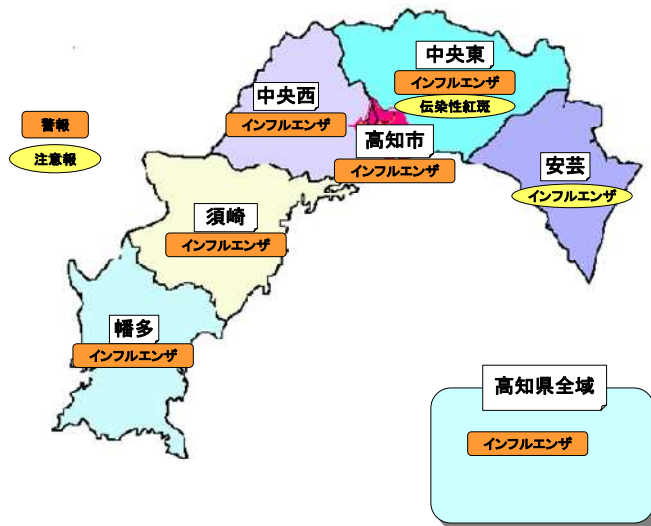
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患）

↑ : 急増
 ↗ : 増加
 → : 横ばい
 ↘ : 減少
 ↓ : 急減

疾病名	推移	定点当たり 報告数	県内の傾向
インフルエンザ	↘	51.02	県全域、高知市、中央西、幡多、安芸で減少していますが、県全域、高知市、中央東、中央西、須崎、幡多で警報値を、安芸で注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	→	5.97	高知市、須崎、安芸で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	1.73	幡多、安芸で急減、須崎で減少していますが、中央西で急増、高知市、中央東で増加しています。
伝染性紅斑	↗	0.50	中央西で急減していますが、高知市で急増、県全域、中央東で増加し、中央東で注意報値を超えています。
突発性発疹	↑	0.40	中央西で急減していますが、県全域、高知市、安芸、須崎、中央東で急増しています。

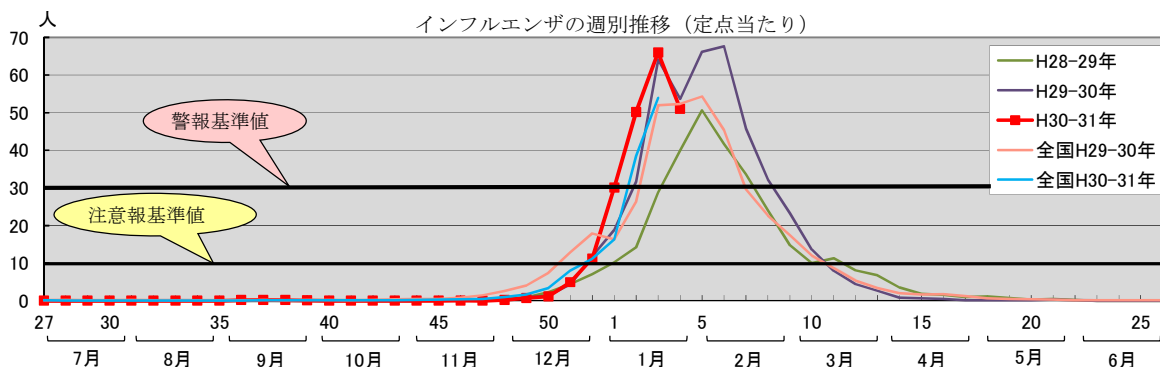
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

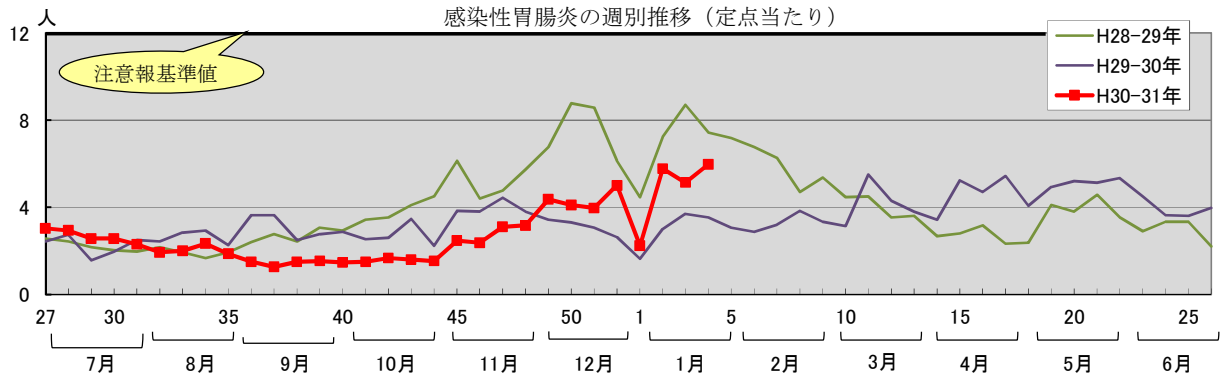
○インフルエンザ 第4週：51.02（注意報値：10.00 警報値：30.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 51.02（前週：66.00）と減少しています。高知市 59.00（前週：82.56）中央西 53.00（前週：70.40）幡多 42.00（前週：57.00）安芸 24.75（前週：33.00）で減少し、県域、高知市、中央東 55.82（前週：65.18）、中央西、須崎 47.75（前週：47.50）幡多で警報値を、安芸で注意報値を超えています。



○感染性胃腸炎 第4週：5.97（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 5.97（前週：5.13）と横ばいです。高知市 7.36（先週：6.00）須崎 5.00（前週：3.00）安芸 3.00（前週：2.00）で増加しています。



★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
4	インフルエンザ	39℃,	2	男	中央東	Human metapneumovirus
4	インフルエンザ	40℃,嘔吐,嘔気,	7	男	高知市	Influenza virus A H1pdm09
4	上気道炎	38℃,咳嗽,上気道炎,	10	女	高知市	Influenza virus A H1pdm09
4	インフルエンザ	—	11	男	中央東	Influenza virus A H1pdm09
4	インフルエンザ	39℃,下痢,腹痛,咳嗽,	4	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
4	インフルエンザ	39℃,咳嗽,上気道炎,	7	男	幡多	Influenza virus A H1pdm09
4	インフルエンザ	40℃,嘔吐,嘔気,上気道炎,	3	男	高知市	Influenza virus A H3 NT
4	インフルエンザ	—	6	男	中央東	Influenza virus A H3 NT
4	インフルエンザ	39℃,	5	男	須崎	Influenza virus A H3 NT
4	インフルエンザ	39℃,咳嗽,	12	男	須崎	Influenza virus A H3 NT
4	インフルエンザ	38℃,咳嗽,	12	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
4	ウイルス性胃腸炎	嘔吐,嘔気,	3	女	中央東	Norovirus GII NT
4	感染性胃腸炎	下痢,嘔吐,嘔気,	10	男	須崎	Norovirus GII NT
4	感染性胃腸炎（ロタ腸炎）	下痢,嘔吐,嘔気,	1	女	高知市	Sapovirus genogroup unknown
4	RSウイルス感染症	39℃,気管支炎,	3	男	中央東	Respiratory syncytial virus B

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
3	不明発疹症	咳嗽,発疹,	3ヶ月	男	須崎	Rhinovirus

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
4類	レジオネラ症	1	1	90歳代 女	高知市
		1	2	60歳代 男	
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	3	80歳代 男	安芸
		1	4	20歳代 女	
	梅毒	1	1	10~14歳 男	中央東
	百日咳	1	6	40歳代 女	

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
安芸	田野病院小児科	インフルエンザ 38 例 (全て A 型: 内 18 例はワクチン接種済み)
中央東	早明浦病院小児科	インフルエンザ A 型 26 例 乳幼児から学童に流行がシフトしてきた、家族感染が多い
	野市中央病院小児科	インフルエンザ A 型 14 例 (内ワクチン接種済み 3 例)
高知市	高知医療センター小児科	病原性大腸菌 1 例 (1 歳男) インフルエンザ A 型 11 例
	けら小児科・アレルギー科	ノロウイルス腸炎 3 例 (0 歳、2 歳 2 人) カンピロバクター腸炎 2 例 (7 歳、10 歳) 病原性大腸菌 O-1 腸炎 1 例 (8 歳)
	細木病院小児科	ノロ 10 例 (10 ヶ月女、1 歳男 4 人、1 歳女 3 人、2 歳女、6 歳女) ロタ 1 例 (10 ヶ月男)
	福井小児科・内科・循環器科	インフルエンザ A 型 62 例 (ワクチン接種済み 16 例) 溶連菌感染症 3 例
	ふないキッズクリニック	ノロウイルス迅速検査陽性 1 例 (1 歳男)
中央西	くぼたこどもクリニック	インフルエンザ A 型 2 例 (1 歳男: 仁淀川町、5 歳女: 須崎市) 帯状疱疹 1 例 (6 歳女) 口唇ヘルペス 1 例 (2 歳女)
	日高クリニック	帯状疱疹 2 例 (64 歳女、92 歳女)
須崎	大西病院小児科	溶連菌 1 例 インフルエンザ A 型 23 例
	もりはた小児科	感染性胃腸炎 4 例 (ノロ 3 例、ロタ 1 例) 水痘 1 例 (9 歳男: 兄弟間感染、ワクチン未接種) インフルエンザ 62 例 (全例 A 型)
幡多	渭南病院小児科	アデノウイルス咽頭炎 1 例 (2 歳女)
	さたけクリニック	インフルエンザ 79 例 (A 型 78 例、B 型 1 例)

★全国情報

第1号 (12月31日～1月6日)

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 結核73例
- 3類感染症: 細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症8例、腸チフス1例
- 4類感染症: E型肝炎1例、A型肝炎6例、つつが虫病8例、デング熱3例、マラリア2例、レジオネラ症20例
- 5類感染症: アメーバ赤痢3例 (腸管アメーバ症3例)、ウイルス性肝炎1例
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症7例、急性脳炎9例、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症6例、後天性免疫不全症候群1例 (AIDS)、
侵襲性インフルエンザ菌感染症4例、侵襲性髄膜炎菌感染症2例、
侵襲性肺炎球菌感染症45例、水痘 (入院例に限る) 5例、梅毒6例、
播種性クリプトコックス症2例、百日咳61例、風しん42例、麻しん7例

削除予定: 風しん3例、麻しん1例

報告遅れ: レジオネラ症1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症13例、急性弛緩性麻痺1例、
急性脳炎6例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、水痘 (入院例に限る) 2例、梅毒31例
播種性クリプトコックス症1例、百日咳71例、風しん10例、麻しん2例

第2号 (1月7日～1月13日)

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 結核315例
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症35例

4類感染症：E型肝炎10例、A型肝炎24例、オウム病1例、つつが虫病8例、デング熱12例
レジオネラ症24例

5類感染症：アメーバ赤痢11例、ウイルス性肝炎1例
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症29例、急性弛緩性麻痺3例、急性脳炎14例
クロイツフェルト・ヤコブ病3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症15例
後天性免疫不全症候群3例、侵襲性インフルエンザ菌感染症9例
侵襲性髄膜炎菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症80例、梅毒58例、破傷風1例
バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、百日咳239例、風しん89例、麻しん37例

削除予定：カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1例、風しん3例、麻しん1例

報告遅れ：細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症4例、E型肝炎2例、エキノコックス症1例、
レジオネラ症5例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症29例、急性脳炎7例
劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、水痘（入院例に限る）2例、梅毒41例、
バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、百日咳60例、風しん20例

○水痘の警報、注意報基準値の変更について

水痘は、平成26年10月に水痘ワクチンの定期接種が開始されて以降、全国的に水痘の患者報告数は大きく減少し、今後は小規模な流行の発見が重要となるため、国立感染症研究所等における検討を経て、国の基準値が平成30年第36週(平成30年9月)から引き下げられました。

本県においても全国の状況と同様に報告数が減少していることから、平成31年1月18日に開催されました高知県感染症対策協議会感染症発生動向部会において「水痘」の警報、注意報基準値を国の基準値変更に合わせて変更することが了承され、1月25日付けで基準値を改定しました。

変更後 警報値：2.00 注意報値：1.00

変更前 警報値：7.00 注意報値：4.00

※基準値は、1週間の定点医療機関当たりの報告数

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第4週 平成31年1月21日(月)～平成31年1月27日(日)

高知県衛生研究所

定点名 疾病名	保健所							計	前週	全国(3週)	高知県(4週末累計)		全国(3週末累計)	
	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/12/31～H31/1/27				H30/12/31～H31/1/20			
インフルエンザ	99	614	944	265	191	336	2,449 (51.02)	3,168 (66.00)	267,596 (53.91)	9,471 (197.31)	537,518 (109.54)			
咽頭結核熱		1			1	1	3 (0.10)	3 (0.10)	847 (0.27)	17 (0.57)	2,919 (0.93)			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		13	30	6	2	1	52 (1.73)	45 (1.50)	6,526 (2.06)	163 (5.43)	15,651 (5.01)			
感染性胃腸炎	6	38	81	16	10	28	179 (5.97)	154 (5.13)	20,739 (6.54)	573 (19.10)	54,198 (17.33)			
水痘		1	5		1	1	8 (0.27)	4 (0.13)	856 (0.27)	37 (1.23)	3,913 (1.25)			
手足口病		2					2 (0.07)	1 (0.03)	539 (0.17)	11 (0.37)	1,318 (0.42)			
伝染性紅斑		8	6	1			15 (0.50)	12 (0.40)	2,804 (0.88)	47 (1.57)	7,141 (2.28)			
突発性発疹	1	3	7		1		12 (0.40)	6 (0.20)	991 (0.31)	28 (0.93)	2,619 (0.84)			
ヘルパンギーナ		1					1 (0.03)	1 (0.03)	47 (0.01)	2 (0.07)	141 (0.05)			
流行性耳下腺炎						1	1 (0.03)	1 (0.03)	284 (0.09)	2 (0.07)	803 (0.26)			
RSウイルス感染症		1	1	1		1	4 (0.13)	11 (0.37)	1,135 (0.36)	23 (0.77)	3,278 (1.05)			
急性出血性結膜炎							()	()	3 ()	()	19 (0.03)			
流行性角結膜炎			1				1 (0.33)	1 (0.33)	455 (0.65)	5 (1.67)	1,535 (2.22)			
細菌性髄膜炎							()	()	11 (0.02)	()	33 (0.07)			
無菌性髄膜炎							()	()	8 (0.02)	()	29 (0.06)			
マイコプラズマ肺炎			1				1 (0.13)	4 (0.50)	111 (0.23)	8 (1.00)	329 (0.69)			
クラミジア肺炎(オウム病は除く)			1				1 (0.13)	()	2 ()	1 (0.13)	4 (0.01)			
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)			1				1 (0.13)	1 (0.13)	27 (0.06)	4 (0.50)	81 (0.17)			
計 小児科定点当たり人数	106 (28.25)	682 (65.53)	1,078 (70.82)	289 (60.99)	206 (55.25)	369 (48.60)	2,730 (60.25)		302,981	10,392 (227.42)	631,529			
前週 (小児科定点当たり人数)	137 (35.50)	769 (72.60)	1,431 (92.00)	381 (80.06)	200 (52.50)	494 (64.60)		3,412 (73.92)						

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

第4週

定点名 疾病名	保健所							計	前週	全国(3週)	高知県(4週末累計)		全国(3週末累計)	
	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/12/31～H31/1/27				H30/12/31～H31/1/20			
インフルエンザ	24.75	55.82	59.00	53.00	47.75	42.00	51.02	66.00	53.91	197.31	109.54			
咽頭結核熱		0.14			0.50	0.20	0.10	0.10	0.27	0.57	0.93			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.86	2.73	2.00	1.00	0.20	1.73	1.50	2.06	5.43	5.01			
感染性胃腸炎	3.00	5.43	7.36	5.33	5.00	5.60	5.97	5.13	6.54	19.10	17.33			
水痘		0.14	0.45		0.50	0.20	0.27	0.13	0.27	1.23	1.25			
手足口病		0.29					0.07	0.03	0.17	0.37	0.42			
伝染性紅斑		1.14	0.55	0.33			0.50	0.40	0.88	1.57	2.28			
突発性発疹	0.50	0.43	0.64		0.50		0.40	0.20	0.31	0.93	0.84			
ヘルパンギーナ		0.14					0.03	0.03	0.01	0.07	0.05			
流行性耳下腺炎						0.20	0.03	0.03	0.09	0.07	0.26			
RSウイルス感染症		0.14	0.09	0.33		0.20	0.13	0.37	0.36	0.77	1.05			
急性出血性結膜炎											0.03			
流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.33	0.65	1.67	2.22			
細菌性髄膜炎									0.02		0.07			
無菌性髄膜炎									0.02		0.06			
マイコプラズマ肺炎			0.20				0.13	0.50	0.23	1.00	0.69			
クラミジア肺炎(オウム病は除く)			0.20				0.13			0.13	0.01			
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)			0.20				0.13	0.13	0.06	0.50	0.17			
計 (小児科定点当たり人数)	28.25	65.53	70.82	60.99	55.25	48.60	60.25			227.42				
前週 (小児科定点当たり人数)	35.50	72.60	92.00	80.06	52.50	64.60		73.92						

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）

〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）

TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2019年1月28日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)：平成 31 年第 4 週
 グラフダウンロード：[第 4 週](#)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2019年 第4週)

